

診療科・部門案内

下部消化管外科では、地域がん診療連携拠点病院として手術治療を中心に主として大腸がんに対し包括的な治療を行っています。

下部消化管外科



緩和医療においては、地域がん診療連携拠点病院であるメリットを活かし地域医療機関との連携のもとQOL（生活の質）を重視した自宅でのケアを積極的に行っています。

●大腸がん

早期大腸がんに対しては内視鏡治療が可能な場合、ポリペクトミー、EMR、および消化器内科と合同で大腸ESDを行い、手術適応の早期大腸がんには腹腔鏡補助下手術を導入し低侵襲な治療を行っています。

一方、大腸がんによる腸閉塞を含む急性腹症に対しては24時間体制で対応しています。

●専門外来（大腸化学療法外来）

手術不能な進行再発大腸がんの患者さんに対しては、大腸化学療法外来を中心に先進の化学療法を通院で行う体制を整えています。外来化学療法の患者数は年々増加傾向となっています。



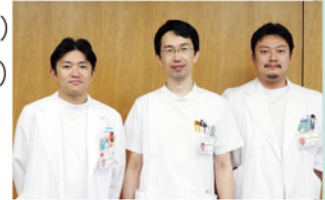
外来化学療法室

化学療法を通院で行う体制を整えています。外来化学療法の患者数は年々増加傾向となっています。

長期治療となりますが、日常生活を送りながら通院治療を受けることができます。

●治療・手術件数（平成22年度）

- 大腸がん/手術(222件)・内視鏡的切除(118件)・化学放射線療法のみ(25件)・外来化学療法(896件)
- 大腸内視鏡治療(ポリペクトミー・入院希望者のみ) 約1,066件(内科+外科)
- 結腸がん/手術(136件)
- 直腸がん/手術(86件)
- 大腸良性手術(28件)
- 小腸手術(40件)
- 緊急手術(110件)

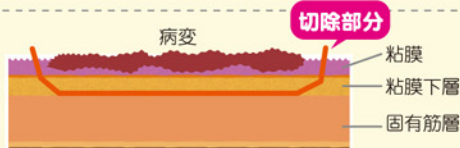


先進医療とは

なるほど納得！
豆知識

新しい医療技術の出現・患者ニーズの多様化等に対応するために、健康保険の診療で認められている一般の医療の水準を超えた最新の先進技術として、厚生労働大臣から承認された医療行為のことをいいます。当院では、内視鏡的大腸粘膜下層剥離術（ESD）を実施しています。

内視鏡的大腸粘膜下層剥離術 (ESD)



早期がんに対し行われる内視鏡治療で、専用の処置具を用い大きな病変を切り取ることが可能な治療法です。



治療前

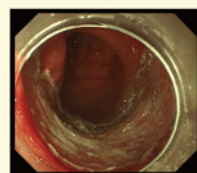


ナイフで病変部の周囲の粘膜を切ります



治療中

手技的に繊細な操作や高度な技術、経験豊富な専門医による施行が要求されます



治療後

病変の標本 70×53/75×61mm

